

筑波大学新聞

第360号

編集責任 筑波大学新聞 編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699 E-mail shinbun@un.tsukuba.ac.jp

発行所 筑波大学 茨城県つくば市 天王台1-1-1

注目記事

- 五十嵐立青氏市長選で再選 平砂アトムムーヴメント第2弾 女子テニス阿部単複2冠 秋の新歓祭 自粛要請の影響 学生600人に食事券配布

特集 指定国立大学法人・筑波大 「真の総合大学」へ6・7 ミニ特集 学生アスリートを支える 頼もしい仕事人たち 3

団体での課外活動自粛要請

再開から2カ月 感染再拡大受け

筑波大の課外活動への対応

- 2月 イベントや集会、合宿の延期や中止を要請
3月 新歓の全面的な自粛を要請
4月 課外活動施設など利用停止
7月 条件付きで課外活動の再開が可能に
10月 「課外活動における団体活動開始ガイドライン」発表 届出を出し許可されると団体での課外活動が可能に
12月 「茨城県知事による外出自粛要請に伴う課外活動の自粛について(要請)」発表 不要不急の活動は自粛に

(筑波大への取材などを基に作成)

佐藤忍副学長(学生担当)は12月9日、「茨城県知事による外出自粛要請に伴う課外活動の自粛について(要請)」を発表し、一部の例外を除いて団体での課外活動の自粛を要請した。大井川和彦知事が11月27日に発出した、つくば市を含む県内8市町への外出自粛要請を受けたものだ。県知事からの要請が解除されるまで活動自粛を継続する。(後藤佳怡)社会学類3年、5、10面に関連記事

要請の対象は、特例申請の許可を受けていないイベント・合宿や学外施設を利用する活動など、不要不急の団体活動だ。ただし、日

程変更ができない大会への参加や延期などが難しい活動は、例外的に学生団体の判断に委ねる。学生生活課によると、現時点では課外活動の全面的な中止は避け、やむを得ない活動以外を自粛してもらおうと判断したという。

同課の担当者は、「新入生、全ての学生団体に、11月28日から不要不急の外出を自粛するよう求めていた。だが、学生から「具体的な活動を抑えるべきか分からない」といった声

部員がおり、新入生歓迎活動をしないことや来年度以降の継続が危ういなど、深刻な事情を抱える団体もある。そうした場合は、10月に発表した「課外活動における団体活動開始ガイドライン」を厳守し、感染防止策を講じた上で活動してほしいと話した。

同課は今回の要請に先立ち、全ての学生団体に、11月28日から不要不急の外出を自粛するよう求め、10月1日に再開していた。「課外活動における団体活動開始ガイドライン」に従って、感染防止策などを明記した「団体活動開始届」を提出し、許可を得ると再開できる仕組みだ。12月4日まで

策が十分でない判断された場合は、同課から改善を求められ、改善が確認されるまで団体活動の停止を指示されることがあるという。今回の自粛要請期間中も、学生団体の活動状況や感染防止対策を把握するため、団体活動開始届の受付は継続する。

商業施設 来春オープン

駅前クレオ 一部オフィスは年内入居

百貨店や総合スーパーの撤退で空きビルとなっている駅前「CREO」(クレオ)は市吾妻について、低層階が商業施設、高層階が企業オフィスになる見込みであることが再開発を進める日本エスコン(本社・東京都港区)への取材で分かった。商業施設は2021年春にオープン予定で、一部のオフィスは年内にも入居。クレオの一部を解体し、建設するマンションは22年10月に完成し、同11月に入居が始まる。

(西村大祐)人文学類3年、山田優芽)比較文化学類1年、12面に関連写真

が撤退し、18年1月のイオン撤退と同時に閉鎖された。同社は同年末にキュートモを、19年にはクレオも取得し、再開発を進めてきた。



来春に商業施設がオープンする「CREO」(12月7日、つくば市吾妻で) = 西村大祐撮影

この差別化を図る。低層階にはスーパーや野菜などを売る専門店や保育園、学習塾、家電量販店などの出店が検討されている。また、その上階には

体験型のゲームも取りそろえたアミューズメント施設や、日常的な衣料品を販売する店のほか、将来的にはフィットネスジムの入居も検討している。

同社によると、クレオ、キュート、モグの名前が同社のブランド「tonarrie」を冠したものに変更することを今後検討する可能性もあるという。

旧イオン側は解体が終わった上で、免震構造を採用した地上18階建ての分譲マンション(216戸)が着工した。マンション名は「レ・シェイドつくば」で、延べ床面積2万9438平方メートル。各戸の間取りは2~4LDKで、面積67~114.2平方メートル。同社によると、周辺のマンションよりも広い90平方メートル前後のプランが

中心で、店舗の併設も計画されている。また、クレオ側に住民専用出入り口を設置することや、商業施設に隣接する特徴を生かして、商業施設への動線確保することが目的だ。

同社のクレオ再開担当者は「つくばで暮らす人、働く人、学ぶ人が満足できるようにまちづくりを目指

す。駅前の顔としてつくばセンター地区全体を引っ張ってきたいと話した。同社のマンション販売担当者は「つくば駅周辺のマンションに関する問い合わせが増えている。コロナ禍でリモートワークが広が

り、都心への通勤頻度が減少したから。2割程度が都内からの入居者になると想定している」と語った。

PRIDE指標は性的少数者が働きやすい職場環境であるかどうかを評価する指標で、2016年に任意で「work with Pride」が策定した。

今年度は、2333の企業・団体から応募があった。審査の結果、1833団体がゴールド、32団体がシルバー、15団体がブロンズを受賞した。

PRIDE指標は▽行動宣言▽当事者コミュニティ▽啓発活動▽人事制度・プログラム▽社会貢献・渉外活動の五つの部門で評価される。筑波大は5部門全てで評価を満し、5点満点中5点を獲得した。

筑波大は今年4月、大学の就業規則や出産育児見守りなどの就業規則や福利厚生を定めた規則を見直しした。規則上の配偶者「妻」の文言を「パートナー」に読み替えたことで、大学として初めて、法律婚、事実婚、性的少数者のカップルを問わず同じ支援を受けられるようになった。



12月9日、第二エコーアで(後藤佳怡)撮影

つぐば歳時記 サザンカは秋から冬にかけて咲く。花は既に散り始めていた。学内にはコートを着込んだ学生もちらほら。筑波おろしが吹く、つくばの寒い冬はもってこいで来ている。(西村大祐)

4月に筑波大に入学したものの、新生活の実感はまだなかった。緊急事態宣言下でアルバイトに頼る生活が続き、授業もオンラインだ。友人を作る機会もなかった。秋学期に入り、事態は好転した。対面授業が再開し、サークルにも三つ入った。

空の春学期を取り戻し、充実した生活を送りたいと思った▼でも、気が付けば残り4カ月で後輩が入ってくる。ピアンサークルでは、来年度の先輩が既に話題になっている。大学新聞も近く執行部が代わる。まだまだ、先輩や同級生との信頼関係が築けていない。環境に慣れるための時間が少なすぎる。新参者のまま、2年生にはなりたくない▼そんな気

性の多様性 SOGI/LGBT+

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター(DACCセンター)の河野直之・助教(人間系)は支援拡充について「DACCセンターだけでなく、組織・職員課や人事課などの協力があってきた。制度の枠は固められたので、今は支援を希望する教職員がスムーズに、安心して申請できるよう対応を充実させたい」と語った。また、「引き続き、学内外で性的少数者への理解促進に取り組むが、学生主体の動きも期待したい」と話した。



### つくば市長選

# 五十嵐立青氏再選

## 筑波大卒業生 市議では小村氏初当選

任期満了に伴うつくば市長選が10月25日に投票され、五十嵐立青氏(42)が平成13年度国際総合学類卒が新人2人を破り、2期目の当選を果たした。五十嵐市長は11月30日、本紙の取材に応じ、「掲げた1355個の公約について、ロードマップを作り、全てを確実に実行していきたい」と語った。市長選と同時に投票された同市議選では、「勝手につくば大使」とこと小村政文氏(27)が平成30年度生物資源学類卒が初当選した。

(寺尾優汰)比較文化学類1年、田所涼(2)教育学類3年、西村大祐



五十嵐氏は、つくば市出 当選した。16年、2度目の身。筑波大大学院人文社 挑戦で市長に初当選した。会科学研究科に在学中の 今回の選挙戦では、1期目 2004年に同市議選で初 掲げた82公約のうち9割

くは市吾妻)のリニューアルを進める方針だ。 新型コロナウィルス対応は「市民生活と経済を守る」ことが最優先」とし、クラスター(感染者集団)対策に力を入れる考えを示した。

筑波大については「つくばの研究機関の中核で、より連携を強化したい」と話した。筑波大生については「非常に優秀で、市役所で活躍している人も多い。学生の視点は面白いので、専門性や興味関心を生かし、まっすぐに関わってほしい」と呼び掛けた。

市議に初当選した小村氏は、北海道出身。筑波大在学中の15年11月から「勝手につくば大使」として、ブログやYouTube、Facebook、Twitterで、市内の飲食店や行事の魅力を発信してきた。



小村政文氏

五十嵐氏は同日市長選で約6万8000票を獲得。史上最多得票で再選したことに「市民の意見を聞きながら市政に取り組んだ4年間の評価された」と受け止めた。一方、総合運動公園予定地だった用地の活用が決まっていなかった問題など1期目で積み残した公約を検証し、2期目で早急に進めていきたいとした。

つくばは駅前空洞化については、市や地元企業が出資するまちづくり会社を設立し、手始めとしてつくばセンタービル(つく

9日の午前中には、やはり予定数に達してしまっただけだったが、今年度はインターネットでの予約システムも導入した。昨年度は「何度かけてもつながらない」とのクレームがあり、通常業務の電話対応も困難になったことが理由だとい

# コロナ禍での避難訓練

## 安否確認システム新たに導入

筑波大は11月17日、筑波キャンパスで防災訓練を実施した。学生や教職員は新たに導入された安否確認システム「ANPIC」で安否を報告した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため屋外への避難訓練は見送ったが、応急手当や初期消火法を学べる消防庁制作のウェブ教材を紹介し、個人学習を促した。

(車谷郁実)社会学類1年

訓練は2限目終了時(午 守るよう放送などで促し前11時25分)につくば市内で震度6弱の地震が発生した。学生や教職員は、各自のメールアドレスや事前に設定したLINE、アプリ各エリアでは、身の安全を

ANPICにアクセスし、安否を報告した。報告期限の同20日までに、教職員と学生2万1938人の61%に当

なる1万3496人が報告した。学生(1万6949人)の報告率は全体の55%で昨年度の27%を大きく上回った。

ANPICは初期登録を済ませ、任意のメールアドレスや、ANPICのアプリ、LINEなどから安否報告が可能になる。今年度も安否報告が可能な。今年度は訓練で屋外避難ができなかった。各自であらかじめ初級登録を行い、複数の安否報告の手段を確保してほしい」と話した。詳しい初

# コロナ後の大学教育を考える

## 国大協シンポ 学生も参加

国立大学協会(国大協・東京都千代田区)は11月25日、第19回大学改革シンポジウム「大学教育の新たな姿(学生の視点に立って)」をオンライン開催した。ポストコロナの大学教育の在り方を、学生も交えて議論する狙いで、教職員や学生ら約320人が参加した。

基調講演では大野英男(東北大学長)が同大のコロナウィルス対応を紹介した。コロナ禍での学生の状況を確認するため、4月に約2000人のアドバイザー

は、通信回線の限界を超えないよう注意する「データダイエット」が重要だと指摘。実際の黒板を映さず、ファイルの画面共有で対応したり、講義型の授業ではオンデマンド型を活用したりすることを求めた。

1年生の受講が多い第2学期(後期)の全学教育科目「視した授業を実施するよう教員に要請し、継続ハネルディスカッション」は、対面での学習効果を重視し、ハイブリッド型で、立初めに喜連川(優国立情報学研究所長・東京大教授)がパネリストとして東京工業大と金沢大の学生計4人も討論に参加した。

保健管理センターで、学内の感染症対策として、学生と教職員向けにインフルエンザワクチンの接種を行った。料金は税込みで1回2500円。職員は定期健康診断期間(11月9日)を避け、10月1日～11月6日と同16日～12月9日に接種期間を分けた。初めて接種を実施した昨年度は、予約開始日に予定数に達した。今年度は昨年度の約2.8倍のワクチン766本を購入したが、予約開始日の9月23日と11月



提供 国大協。ディスカッションでは、立初めに喜連川(優国立情報学研究所長・東京大教授)がパネリストとして東京工業大と金沢大の学生計4人も討論に参加した。

同センターの担当者は「学生と教職員からの要望もあり、今年度も実施した。来年度以降も実施する予定だが、ワクチン数を増やすかは未定」と話した。(遠子内早紀)教育学類3年

# 明鏡国語辞典 第二版発売

## 筑波大の教員や学生も編集

大修館書店(本社・東京都文京区)は12月10日、10年ぶりの改訂版となる「明鏡国語辞典 第三版」を発売した。元筑波大学長の北原保雄名誉教授が編者で、第三版は10年の発行だ。

第三版では第二版に約3500語が加えられ、収録語は約7万3000語となった。「SDGs」や「キャッシュレス」などの新語、「心身二元論」のような評論文でよく使われる語を中心に追加された。さらに、改まった場面でも使える言葉を用例とともに紹介する「品格」欄が、一部の語で新設された。



改訂された「明鏡国語辞典 第三版」(12月6日、本紙編集室で)

三つに分けて巻末に収録した。「明鏡 利活用索引」では、誤用や品格語のほか、通常の五十音順からは引きにくい語を調べることで「明鏡国語辞典(人社系)」は矢澤真人教授(人社系)は「明鏡国語辞典は電子媒体での活用を軸に編集を進めており、紙媒体での発刊は成果の一部だ」と話す。電子版では、電子媒体の特性を生かした機能も盛り込むという。

また、矢澤教授は「不易流行」が明鏡国語辞典の特長だ。正しい日本語の使い方を解説する一方、言葉の揺れの動きも見え、バランスの良い国語辞典だと思ふ」と語った。B6判、1925頁、3000円(税別)。(西村大祐、写真も)



# 学生アスリート支える 頼もしい仕事人たち

71団体が所属する筑波大学の体育会。日本学生陸上競技対校選手権大会で今年3連覇を果たした陸上競技部女子や全日本学生選手権大会で史上初の5連覇を達成したバドミントン部女子など、国内トップクラスの選手がひしめく。また、筑波大は選手の活躍を支える体制や人材も整う。日々のトレーニングや対戦相手の分析、栄養管理からスポンサー企業の獲得まで、さまざまな分野で日々、活動している。そんな頼もしい仕事人たちを紹介する。(天野隼太 比較文化学類、車谷郁実、小菊日怜 社会学類、遠子内早紀 教育学類、大和祐菜 障害科学類、中山友明 香 II 生物学類)

## TSATレーナーチーム

筑波大の学生アスリート 生29人が所属する。支援する組織が筑波大学 スポーツアンチエーション(TSA)だ。2010年4月に設立された。運動部へのコーチ派遣や試合結果の情報発信など並ぶ事業の柱が、トレーナーチームの活動だ。

同チームはトレーナーの認定、養成・育成、派遣という三つの活動をしており、現在は58人のトレーナー(大学院生29人、学群

## 運動栄養学研究室

今年の第96回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)に、26年ぶりに出場を果たした筑波大駅伝チーム。快挙の裏には栄養学の視点からチームをサポートし続けた運動栄養学研究室の存在があった。

同研究室は麻見直美准教授(体育系)が指導し、大学院生15人と学群生14人が所属する。スポーツ選手の食生活指導など運動と栄養に関する幅広い研究を行っている。昨年は、つくば市で五輪の事前合宿をしたトライアスロンと陸上競技のスイス代表チームの食事もサポートした。

## 箱根路

## 走り支える栄養学



駅伝チームの選手に食事を提供する運動栄養学研究室のメンバー＝同研究室提供

選手と接する中で「大事な試合前は、栄養バランスが崩れるアイスクリームなどの間食はしないほうがいい」と語った。

同研究室の深澤瞳さん(体育9年)は「食材に応じた調理方法や、栄養的に好ましい食材は何かという質問を受けることも増えた。選手たちの食事に対する興味や知識が高まっている」と語る。

同研究室の深澤瞳さん(体育9年)は「食材に応じた調理方法や、栄養的に好ましい食材は何かという質問を受けることも増えた。選手たちの食事に対する興味や知識が高まっている」と語る。

## 運動部にトレーナー派遣

同チームはトレーナーの認定、養成・育成、派遣という三つの活動をしており、現在は58人のトレーナー(大学院生29人、学群

養士の資格を持つ大学院生が選手寮「桐萌塾」に週5日出向して夕食を作る。また、選手に向けた食事のコンディショニングのため、体組成計測と血



蹴球部のトレーナー時代、試合中選手に声をかける金さん(右)＝本人提供

し、けがの予防とパフォーマンス向上を図っている。コロナ禍で活動自粛期間中は、トレーニングやハジリの指導をオンラインで行った。それぞれの選手に合わせたメニューを作り、一人でもトレーニングできるように努めた。対面練習の再開後は、これまで選手間で共有していた水分補給容器を個別に分けて接触の機会を減らすなど、感染対策にも取り組んだ。

選手がけがをする瞬間を予想できないことがトレーナーの仕事の難しい点という。ラグビーでは選手同士の衝突や脳しんどうを起すことで、選手がけがをする瞬間を予想できないことがトレーナーの仕事の難しい点という。ラグビーでは選手同士の衝突や脳しんどうを起すことで、選手がけがをする瞬間を予想できないことがトレーナーの仕事の難しい点という。

## 硬式野球部SSD

筑波大の運動部にはデータ分析で選手を支える存在もいる。硬式野球部の scientific support department(SSD)もその一つだ。現在は3、4年生計5人で活動している。

SSD発足は2005年。当初は対戦前に相手チームの試合や練習を撮影することが主な仕事だった。昨年10月からは、投手や打撃など選手の動きを捉える最新の計測器を導入し、データ分析を活用したチームの技術力向上を図っている。



計測器を使って選手にアドバイスを河崎さん(左)(11月18日、筑波大野球場)＝天野隼太撮影

河崎さんは「リーグ戦勝利に貢献することが最大の目標。授業で学んだデータ分析を仕事に還元していきたい」と意気込んだ。

## データ分析で勝利に貢献

## 蹴球部スポンサー局

部の運営を支えることも、選手の活躍につながる。筑波大蹴球部の選手は必ず会計局や広報局などの配属して調理する。旬の食材を使って季節を感じてもらったり、さまざまな調理方法を用いたりしてメニューのレパートリーを増やしている。同研究室の木岡一輝さん(体育9年)は「何か特別にこだわった食事ではなく、選手全員にとって不足のない食事」だと説明する。レース前は、選手のコンディショニングを考えた、脂肪の少ない食材の追加などをした献立になっている。

同研究室の深澤瞳さん(体育9年)は「食材に応じた調理方法や、栄養的に好ましい食材は何かという質問を受けることも増えた。選手たちの食事に対する興味や知識が高まっている」と語る。

同研究室の深澤瞳さん(体育9年)は「食材に応じた調理方法や、栄養的に好ましい食材は何かという質問を受けることも増えた。選手たちの食事に対する興味や知識が高まっている」と語る。

同研究室の深澤瞳さん(体育9年)は「食材に応じた調理方法や、栄養的に好ましい食材は何かという質問を受けることも増えた。選手たちの食事に対する興味や知識が高まっている」と語る。

同研究室の深澤瞳さん(体育9年)は「食材に応じた調理方法や、栄養的に好ましい食材は何かという質問を受けることも増えた。選手たちの食事に対する興味や知識が高まっている」と語る。



スポンサー企業に契約更新の説明をする伊藤さん(右)(11月20日、トヨタカローラ南茨城の本社)＝車谷郁実撮影

伊藤さんは「現実を直視させられた。まずは結果を残すことにはこだわらないといけないと感じた」と語る。今年度は新しい会社からスポンサーについての問い合わせがあったものの、新型コロナウイルスの影響もあり、契約はできていない。伊藤さんは「スポンサーを増やして選手の士気を高め、チームの勝利にも貢献したい」と意気込んでいる。

## 企業支援でチーム士気向上

伊藤さんは「現実を直視させられた。まずは結果を残すことにはこだわらないといけないと感じた」と語る。今年度は新しい会社からスポンサーについての問い合わせがあったものの、新型コロナウイルスの影響もあり、契約はできていない。伊藤さんは「スポンサーを増やして選手の士気を高め、チームの勝利にも貢献したい」と意気込んでいる。



# 記者の声



遠子内早紀

## 演奏会開催のめど立たず 大学はさらなる支援を

音楽系学生団体

中学校で吹奏楽部に所属したこともあり、ライブ演奏を聴くのが好きだ。本紙でも音楽担当となり、学生団体の演奏会取材してきた。だが、今年度はまだ一度も演奏会取材していない。10月に学生団体の活動自粛が一旦解除された後も、演奏会が軒並み中止や延期になっていく。

コロナ禍なのだから仕方ない。そう納得しようと思っただけで、多くの学生団体、学として活動も再開するよという側面があったはずだ。

活動再開を認めた。各種大会も開かれ、陸上競技部や硬式野球部などの活躍が再び本紙のスポーツ面を飾るようになった。運動部系は、大会への出場が選手のキャリアに直結する。競技ごとに主催団体があり、感染対策なども定めているので、大学としても活動を認めやすいという側面があったはずだ。

全国の大学生から映像作品を集めてオムニバス映画を作り、YouTubeで上映する企画があり、筑波大の2団体も参加したことを本紙359号で紹介した。これなどは、オンラインを活用したからこそできた企画だと言えるだろう。

だが、音楽系学生団体はオンライン以前に、練習の壁に突き

だが、多くの文化・芸術系サークルは違う。公演会や展示会などを開く場合、主催するのはそのサークルであることがほとんどだ。当然、感染対策なども独自に行うことになる。そのハードルは高い。

もちろん、そうした団体もオンラインの活用を図っている。同楽団団長の藤澤初恵さん

当たら。筑波大学ジャズ楽団 Neopolis BIGBAND はこの夏から「リモート合奏」を試みている。団員はカラオケボックスなどで曲を録音し、それをまとめて曲を完成させる。だが、まだ1曲も完成していないという。全面的に活動自粛を求めたわけではないが、日常的な練習不足が大きな理由だ。

こうした状況に追い打ちをかけたのが、茨城県知事からの要請に伴い、12月2日に学生担当副学長名で出された課外活動の自粛要請だ。4月の要請とは異なり、全面的に活動自粛を求めた。全面的に活動自粛を求めた。全面的に活動自粛を求めた。

# 筑波時評

今年初め(一説では昨年末)からの新型コロナウイルスのパンデミックが突き付けている諸課題に対して、それぞれの専門家が分析や処方方を展開している。ここでは宗教学の立場から、集団免疫とトリアージ(医療における命の選別)に焦点を絞って、考えてみたい。

「宗教学」といっても、多様な領域や方法を含むこの分野は、個々の研究者によって、大E・キユブルー・ロスの研究はきな違いがある。私個人は、宗タナトロジー、つまり「死」の

## 必ず訪れる自他の死 考え深め生きる指針に

コロナと死生学

津城 寛文 教授 (比較宗教学)

人文社会系・教授。東京大学大学院人文社会科学研究科博士課程単位取得退学。博士(宗教学)。静岡国立大学教授を経て、2003年より現職。

現代死生学の出発点となったのは、個々の研究者によって、大E・キユブルー・ロスの研究はきな違いがある。私個人は、宗タナトロジー、つまり「死」の

日本の死生学は「生」を前面に出すことで「死後」「死者」を生者の記憶や表象として以外には、考えない方向を取った。やや迂遠な話をしたのは、自他の「死後」「死者」となった自他を考察することが、今回のパンデミックに限らず、必ず訪れる自他の死に対する、心の準備になり、生きる指針にもなる

学であったが日本の死生学は、ある経緯によって、Death and Life Studies という英語で流通している。「死ぬ瞬間」までの研究で名声を得たキユブルー・ロスは、その後「死後」を強調するようになり、アカデミックな名声が多少とも損なわれた。それと対比して言えば、

グループである。集団免疫にせよトリアージにせよ、数字の比率をもとに合理的な判断を徹底に下すことは、非常時には断行せざるを得ないが、平時にこれをこなす、危うい優勢思想に巻き込まれがちである。現在の日本では、こうした議論でのもも、表には言ひ、平時から自他の死を考る習慣を持つことが望ましい。更に、あえて私見を加えれば、自他の「死後」を考る習慣を持つことが望ましい。死及び死後を考ることで、生を考ることは、相見することではな、相生的、相補的、相乗的である。そのための知恵は、諸宗教の最良の部分に秘められており、そこからエッセンスを学び、死と死後を巡る教養を培うことが、連綿と行われてきた。私たちがそうした慣習を非人道的と批判するのは、日本社会、露骨な命の選別をしない済むだけの余裕があるからであり、

# 反射鏡

## 「コロナ禍の帰省、どうする？」

北海道から沖縄まで全国各地から学生が集まる筑波大。例年は年末年始に帰省する学生が多い。新型コロナウイルスの感染が第3波を迎える中、筑波大生はこの冬にどう対応するのだろうか。中央図書館前や第三エリアなどで聞いた。(細井真生 人文学類1年、西村大祐 同3年、山田優芽 比較文化学類1年、東谷郁美 社会学類1年)

【心理2年・男性 Ⅱ大阪府】 年末年始は帰省しない。両親と話し合い、今年は時期を早め、10月末に1週間帰省する。対面でのテストも省いた。複数の公共交通機関がなくなり、昨年度より関の利用を避け、バスのみも長く滞在できる。帰省で移動した。利用も少ない。新型コロナウイルスに感染するの、多くの人の接触を防止できる日、再び来ることを願っている。(教育学類3年)

【心理2年・男性 Ⅱ大阪府】 年末年始は帰省しない。両親と話し合い、今年は時期を早め、10月末に1週間帰省する。対面でのテストも省いた。複数の公共交通機関がなくなり、昨年度より関の利用を避け、バスのみも長く滞在できる。帰省で移動した。利用も少ない。新型コロナウイルスに感染するの、多くの人の接触を防止できる日、再び来ることを願っている。(教育学類3年)

【文2年・女性 Ⅱ愛知県】 帰省して、成人式に出席したが、自分が知らぬ間に感染し、それを受験生の弟に移してしまうのが怖い。感染拡大が収まれば地

【物分前期2年・男性 Ⅱ東京都出身】 11月に帰省予定だったが、新型コロナウイルスの感染が再び増えたので断念した。年修士論文の進捗状況にもよるが、帰省はしないつもりで、帰省は新幹線を利用するの、新型コロナウイルス感染への心配もある。夏は混雑するお盆休みを外し、比較的空いている平日に帰省した。年末年始は新幹線の混雑を避けるのは難しい。

【教育P前期1年・女性 Ⅱ中国吉林省出身】 新型コロナウイルスの影響で帰国できず、帰省もしない。現在は、来夏に帰省することを考えている。帰ったら家族や友達に会い、地元料理を味わいたい。

【物分前期1年・男性 Ⅱ山形県出身】 例年、盆と正月には帰省している。いつも通り車で帰省しようと思う。実家に親戚が集まるため、新型コロナウイルスに感染しないか、感染させてしまわないか、不安はある。

## 東京五輪・パラ開催への賛否

来年の東京五輪開催まで、250日を切った。11月には国際オリンピック委員会(IOC)のトーマス・バハ会長が来日し、東京で開かれた体操競技の国際大会には日米中露4カ国の選手が参加した。五輪開催に向けた動きが進む一方、国内では連日、多数の新規感染者が確認されている。欧州でも感染が再拡大し、ロックダウン(都市封鎖)などが実施された。筑波大生は来年の五輪・パラリンピック開催をどう考えているのか。中央図書館前などで聞いた。(山田優芽 比較文化学類1年、半田実乃理 社会学類1年、加藤慶花 国際総合学類3年、遠子内早紀 教育学類3年、中山友萌香 生物学類1年)

【文2年・女性】 賛否は、それがそれ以外の接触プレーが多い競技は、競技は「3密」を避け、観客を国内居住者に限定すれば、感染リスクが高まるかも

【文2年・女性】 賛否は、それがそれ以外の接触プレーが多い競技は、競技は「3密」を避け、観客を国内居住者に限定すれば、感染リスクが高まるかも



イラスト=田所涼(教育学類3年)

ば、感染リスクを抑えられるので開催可能だろう。一切開催しないのは経済的打撃が大きいため、小規模でも開催の方がよい。

【体専4年・女性】 国内では、感染拡大を避けるために長距離移動を控える動きがある。それにも関わらず、選手だけでなく観客としても多くの外国人を迎えるのは危険だと思ふ。入国者がウイルスを持ち込む可能性もある。

【文4年・男性】 東京ドームなどでは、収容人数の半分以上の観客を入れる実証実験をしているが、五輪時は国内外からも望んでいないと思う。開

【物分前期1年・男性 Ⅱ山形県出身】 例年、盆と正月には帰省している。いつも通り車で帰省しようと思う。実家に親戚が集まるため、新型コロナウイルスに感染しないか、感染させてしまわないか、不安はある。

【物分前期1年・男性 Ⅱ山形県出身】 例年、盆と正月には帰省している。いつも通り車で帰省しようと思う。実家に親戚が集まるため、新型コロナウイルスに感染しないか、感染させてしまわないか、不安はある。



# 課外活動 いまだ前途多難

## イベントの中止や延期相次ぐ

【一面参照】課外活動における団体活動開始ガイドラインが10月1日に発表され、多くの学生団体がこの指針に基づき対面での団体活動を再開していた。だが、音楽系サークルでは、イベントの中止や延期に追い込まれたままの団体もある。12月2日には学生担当副学長名で再び活動自粛要請が出され、課外活動の行方は不透明なまま。コロナ禍の影響を芸術系サークル連合に所属する2団体に聞いた。

(二橋美音＝教育学類1年、遠子内早紀)

筑波大学合唱団むくむくり 団員の約4分の1の人数は10月16日から週3回の団体活動を再開した。部員同士の距離を一定以上に保つため、練習場所でもある文化系サークル会館の部屋に同時入室する人数を5人に制限している。全

予定していた第87回定期演奏会を中止した。また、10月24日に開催予定だった第88回定期演奏会も来年3月10日に延期した。

10月上旬の開催予定を12月13日に延期し、無観客で実施する予定だった定期コンサートは、開催自体を中止した。試験期間が近いなどの理由で、年内はもう団体の練習は行わないという。

新入部員もまだ2人しかおらず、運営の引き継ぎも不透明だ。団長の下山紗智子さん(医療3年)は「合唱が好きで活動しているのに残念。イベントが予定通りにできないと、団を継続するのも難しい」と話す。筑波大学管弦楽団は4月から対面での練習ができなくなっていたため、5月に再開したものの、感染対策のため、楽器ごとに別れて練習を行ってきた。管弦楽団の栗村悠人さん(社会学2年)は「団が借りている教室を回って、30分1回の換気や距離を保つよう注意している。感染対策に気を配りながらの練習は大変だと話す。」

# ビブリオバトル開催

## 本の魅力 オンラインで伝える

「大学生ビブリオバトル 筑波杯秋の陣」(筑波大学ビブリオバトル実行委員会主催)が11月4日、オンライン開催された。積風我さん(知識1年)が紹介した小説「アルヒのシンギュラリティ」(クラークンラポ)が、観客たちが一番読みたかった「チャンプ本」に選ばれた。

12月2日の自粛要請を受け、管弦楽団は同13日まで団体の練習を一旦見合わせた。来年1月15日のプロムナードコンサートは予定通り開催したい考えだ。10月の活動再開後最初の公演で、各カテゴリーに基づき感染対策を行った上での開催となる。



本の紹介をする積さん(12月9日、本紙編集室で)

本の魅力を5分間語り、その後3分間で他の出場者と聴衆の質問に答えた。全出場者の発表終了後に、出場者と聴衆による投票が行われ、チャンプ本が決定した。「アルヒのシンギュラリティ」の舞台は、感情や自我を持つロボットと人間が共に暮らす街だ。主人公の少年は、純粋な気持ちから起こした行動で、ある重大な出来事の当事者となる。

「他人を思う純粋な心の美しさと本当の愛を見つけれられる。この本を読むことがきつとあなたのシンギュラリティ(技術的特異点)になる」と話した積さん。読後に自身が抱いた感動を、心のこもった話し方で巧みに聴衆に伝え、物語への関心を強く誘った。(半田実乃理＝社会学類1年、写真も)

# アートで市民とつながりを

## 平砂アートムーブメント

使われなくなった空間をアートを通して再活用する「平砂アートムーブメント」の第2弾が、9月22日に始動した。今年度は舞台を平砂学生宿舎からつくばセンター広場(つくば市吾妻)に移し、アートにまつわるイベントや美術展を約半年

間に行なう予定だ。第1弾は昨年5月から6月にかけて行われた。芸術専門学群の学生5人が中心となって企画した。これまでライブペインティングや写生大会など、週替わりのイベントを実施してきた。

11月14、15日は速水一樹さん(芸術前期2年)が色のついた長さの違う5本の角材を組み上げて作品を作るパフォーマンスを、広場に隣接するつくばセンタービルや松見公園(同市天久保)など市内計21カ所で披露した。



つくばセンター広場のオブジェを利用し角材を組み上げる速水さん(増田甚八さん提供)

使用した角材はいずれも2材(50・8cm)×4材(101・6cm)角で、長さは22・5cmから360cm。既存の建築物を利用し、ひもや接着剤なしで、パズル状に角材を組み上げる。松見公園では、喫煙所の

# 図画団展 on the web

## 力作59点揃う

筑波大の美術サークル「図画団」の団員33人が制作した油絵やデジタルイラストなど多彩な59作品を紹介するオンライン展示会「図画団展 on the web」が11月7日に始まった。

図画団は例年、雙峰祭を含め年に3回、展示会を開いていたが、今年度は新型コロナウイルスの影響で全て中止した。新たな作品公開の場として、ウェブサイ



館野さんの作品「to アキバ」=本人提供

トの開設を7月から進めていた。閲覧者は気に入った作品のコメントをサイト上に書き込んだり、作品のサイト情報をツイッターで共有したりできる。

図画団は、集団での活動が難しくなった4月から週に1度、テーマを決めて団員がイラストを描き、ツイッターで共有する企画「図画団オンライン課題絵」を行ってきた。

館野泰直さん(知識1年)は、同企画で描いたイラストを含め計7作品を出展した。「to アキバ」と題した作品は、つくばエクスが難しくなった4月から週に1度、テーマを決めて団員がイラストを描き、ツイッターで共有する企画「図画団オンライン課題絵」を行ってきた。

# 『生れ出づる悩み』

有島武郎 著



つくば市天久保で廣間業月撮影

# 俳句 筑波大

ふらこの下に紅葉の濡れてある空荒れてすすきの朱野を走りぬる銀杏散る靴下とりどりの往来

11月初旬に散歩した。銀杏の黄や紅葉の赤は言うまでもなく、秋の紫、菊の白など様々な色が秋を彩る。そんな秋の色を気になげながら歩いていると薄雲が目に輝く銀色ではなく赤色だ。秋が深まり白い毛が生える前は花穂の赤が目立つらしい。記憶に秋の色が一つ増えた。(吉川創揮＝比較文化学類4年)



大学院に進学して以来、子供のキャリア形成支援について研究してきたが、実は私自身はあまり進路選択で深く悩んだことがない。唯一の例外といえるのが、2011年3月の出来事である。このとき私は日本学術振興会特別研究員(PD)への採用が決まっていた。次年度から3年間という任期付きであるが、研究に専念できる環境を得ていたわけである。ところが思いがけず、福島県にある短大

の講師として着任しないかという話が、指導教員から舞い込んだ。研究と安定のどちらを優先するか、実力で獲得したポストとコネ採用のどちらを選ぶか、心は大いに揺れた。

決めかねた私は、特別研究員の受け入れ先であった夏目達也先生(名古屋大学)に助言を求めた。そのときに読むように勧められたのが、この一冊である。アマチュア画家(君)が自分の可能性を信じられぬまま、漁師という生活のため労働と絵を描きたいという芸術への志向の狭間で、福島の先生が、小説

「人に聞かずに自分で悩んで考えろ」というメッセージを受け取った私は、そのことを先生にお伝えしたところ、次のような返事が届いた。「人のキャリアを研究する者が、自分のキャリアで悩んだことがないというのは致命的です。これは良い機会なので、しっかりと悩んでください」。その後、東日本大震災

# 京免 徹雄 助教 (教育学)



人間系・助教。早稲田大学院教育学研究科博士課程修了。博士(教育学)。郡山女子大短期大学部講師、愛知教育大講師を経て、2019年の現職。

このメールを読んだ瞬間、不意に涙がこぼれたことをよく覚えている。3月末この本を携えて、先生からの温かい思いを胸に、ガラガラバスに乗って福島へと向かった。



特集

指定国立大学法人

指定国立大学法人制度とは

指定国立大学法人制度は2017年の改正国立大学法人法で創設された。世界の有力大学と肩を並べる大学を指定し、研究力や人材育成能力を強化し、研究成果の社会還元などに一層、尽力することが求められる。このため、筑波大は学問分野の壁を超え、地球規模の課題を解決する「真の総合大学」となることを掲げている。この目標を達成するために、どのような取り組みを具体的に進めるのか。指定にはどのような意義があるのか。筑波大の永田恭介学長へのインタビューや識者の意見も交え、紹介する。(西村大祐 人文学類、北川瑠菜 II 比較文化学類、後藤佳佳 II 社会学類、大和祐菜 II 障害科学類)

「真の総合大学」を目指して

Table with columns for year and university name. Includes: 2016年11月公募開始 (17年6月 東北大, 18年3月 東京工業大, 18年10月 大阪大, 19年9月 一橋大), 19年10月改めて公募開始 (20年10月 筑波大, 東京医科歯科大)

文部科学省が指定国立大学法人の公募を始めたのは2016年11月。応募した7大学のうち東北大、東京大、京都大が17年6月に初めて指定された。残りの4大学は今後の指定を目指し構想を練り直す

指定は計9大学

「指定候補」となり、18年3月に名古屋大と東京工業大、同年10月に大阪大、19年9月に一橋大が指定された。19年10月に改めて公募され、20年10月に筑波大と東京医科歯科大が指定されたことで、指定国立大学は計9大学になった。

大学は指定国立大学法人として必要を取り組みや目標を盛り込んだ構想調書を提出しており、その内容や現地視察の結果が評価された。その結果、10月15日に筑波大と東京医科歯科大が新たに指定された。文科省によれば、筑波大は、構想実現の道筋が明確になっていることや学長の強いリーダーシップの下で目指すべき方向性や取り組みが全学的に浸透していることが評価された。

筑波大の指定国立大学法人としての構想(一部)

(筑波大への取材などを基に作成)

地球規模課題を解決できる「真の総合大学」へ "Beyond the borders."

地球規模課題の解決に資する研究成果の社会実装

- ベンチャーエコシステムの構築
ニーズドリブン型開発研究の推進
筑波研究学園都市を活用した国際連携
大学発ベンチャー累計数: 2040年度に500件(18年度は144件)
産学共著論文被引用数: 40年までに30回(18年は12.8回)

国境や組織の壁を超える人材育成

- 全学的チュートリアル教育による人材育成
「高度」学際型教育の実践
大学院に新学際創造学術院(仮称)を新設
マレーシアに海外分校設置
外国人留学生: 30年度に5000人(18年度は3537人)
学士課程から大学院への進学率: 40年度までに70%(18年度は41.2%)

学問分野の壁を超える研究力強化

- 計算科学研究センターと国際統合睡眠医科学研究機構を世界最高水準の研究拠点に
異分野横断で新たな研究分野を創出
新たな産学連携としてB2A研究所を開設
査読付き論文数: 40年に5000報(18年は3364報)
TOP1%ジャーナル論文数: 40年に180報(18年は78報)

ベンチャーエコシステム
筑波大は教員や学生に向けてアントレプレナーシップ(起業家精神)講座を開設し、大学発ベンチャーの起業を促進してきた。また、大学は教員や学生がベンチャー企業を設立するまでを支援し、利益を得たその企業から最終的に寄付金などで資金が返ってくる「ベンチャーエコシステム」を構築してきた。今後、2040年度までにアントレプレナーシップ教育の受講者を18年度の約7倍の1000人にする。また、大学発ベンチャーの累計は18年度比で約3倍の500件にする。

チュートリアル教育
各学生に1人のチューター教員を配置し、学生がさまざまな専門領域を持つ教員のもとで学べるように支援する。1、2年次では科目履修の指導をし、必要に応じて教員の仲介もする。その後は、他の専門分野の教員とともに指導し、最終的には卒業研究の指導教員にバトンタッチする。25年度から、1学年約400人いる総合学域群の学生のうち約40人を対象に導入する。段階的に全学展開し、40年度には医学群などを除く約1600人で導入する予定だ。

マレーシア分校
日本とマレーシア両政府の要請・支援を受けて設置する海外分校。実現すれば日本初の取り組みとなる。現地の教育機関と連携しつつ、日本型の教育を実施・改善することで、日本型高等教育の輸出を先導する。マレーシアやその周辺国から学生を受け入れる。1期生は23年秋以降に入学する予定だ。

B2A研究所
企業の研究部門を学内に誘致し、企業の研究者と筑波大の教員が連携して研究する産学連携の取り組みの一つ。企業が直面した課題の解決にあたり、大学の持つ基礎研究力を生かす狙いがある。40年度までに10研究所の開設を目指す。

永田学長に聞く



本部棟で11月27日、北川瑠菜撮影

指定国立大学法人としてどのような大学を目指していくか。さまざまな学問分野があり、それらが互いにリスペクトしながら共同研究をする。そして、新しい学問分野や新しい世界を築くこと。この「真の総合大学」を目指す。永田学長に聞いた。(聞き手・西村大祐、北川瑠菜)
「指定国立大学法人としてどのような大学を目指していくか。さまざまな学問分野があり、それらが互いにリスペクトしながら共同研究をする。そして、新しい学問分野や新しい世界を築くこと。この「真の総合大学」を目指す。永田学長に聞いた。(聞き手・西村大祐、北川瑠菜)
分野になる。建学の理念である「不断の改革」を執行していかなくてはならない。指定国立大学法人として実現したいことは、社会や産業界が教育や基礎研究に熱心にお金を出してくれるような文化を作りたい。特定の研究のためにお金を出してもらおうのではなく、次世代の人を育てるために寄付をするという考え方を持つ社会に変わってほしい。それが今後の日本の教育や基礎研究を支える源になる。ビジネスの課題を、基礎研究まで戻って解決するB2A(Business to Academia)研究は、社会を変える一つのきっかけになるのではないかと。指定国立大学法人になると、規制が緩和されるが、大学債を発行しやすくなる。ただ、新しい分野は、生まれた瞬間に既存の規程に適合しない。チュートリアル教育に力を入れる。18歳や19歳で一生やることを決めることは難しい。大きな夢に向かって歩んでいく学生をサポートするシステムとして一番成功しているのが、オックスフォード大、ケンブリッジ大の「チュートリアルシステム」だろう。チュートリアルの教員が学問分野を限らず、1年時から学生に付く。この分野を勉強した方がよい、この先生に話を聞いてみたらなど、学生の関心に応じてアドバイスをし、学生自身の意思決定を助ける。チュートリアルで学生のモチベーションを作れば、筑波大ならしっかりと勉強してくれる。段階的に増やし、最終的に1学年2000人の学群のうち8割程度はチュートリアル教育ができるのではないかと概算している。



### 他大の取り組み

### 産学連携の 新モデル提示

京都大 注力する取り組みを▽研究▽教育▽産学連携▽大学運営の4項目に分けた。中でも産学連携は、全額出資する子会社を2社設立するなど先進的な取り組みを進めている。

### 個性や特色の発展を目指す

東北大 材料科学、スピントロニクス、未来型医療、災害科学の4領域の研究に特に力を入れている。これらは東北大が得意としてきた分野で、世界屈指の研究拠点形成を目指している。

### 災害報道など4領域 でリードを目指す

一橋大 社会科学系に特化した唯一の指定国立大学法人だ。経済学や経営学、心理学、データサイエンスなどを重点領域に定め、重点領域全体で研究者を60人増やすことを目指している。また、英文業績を大学全体で年間300本以上にする目標も設定した。

### 日本の社会科学研究 の先導を目指す

大オリジナル(本社・同)を設立した。企業へのコンサルティンクや研修・講習を通して、京都大の研究成果を社会に生かし、収益は教育研究に還元することが目的だ。

### 識者に聞く



山本佳世子  
日刊工業新聞論説委員

筑波大の指定国立大学法人への指定や、掲げた施策は外部からどのように受け止められているのか。長年、大学改革や産学連携などについて取材を続ける日刊工業新聞の山本佳世子論説委員に聞いた。(聞き手 西村大祐、北川瑞穂)

### 大学改革先導に期待

指定国立大学制度は、2004年の国立大学法人化以後に進められてきた大学改革の総仕上げに向けてきた大学改革の総仕上げに向けてきた。法人化以前の国立大は文部科学省の一機関だったため、それぞれが平等という認識

### 学長の意欲も評価

体育と芸術の両方の分野を持ち、組織の壁が低いユニークさが筑波大の強みだ。旧帝国大学や東京工業大は理系が優れているも、筑波大のように学内で体育や

### 学際性かす施策

チュートリアル教育は、教育大の歴史を持ち、「人づくり」を重んじる筑波大ならではの取り組みだ。組織の壁が低いからこそ実現可能で、ほかの総合大学ではこのような発想にはならないのではないか。

### 他大学への刺激にも

指定国立大学に指定されたらと聞き、一番意外だったのが筑波大だ。これまでも、予算面で東大や京大が優遇されてきたが、筑波大が優遇されてきたのは、その他の国立大学は「関係ない仕組みだ」と考えている部分があった。

## Hello! 先端研究



桑原純平准教授

持続可能な生産が可能で、環境への負荷が少ないバイオマス材料として注目されているのが藻類オイルだ。桑原純平准教授、神原貴樹教授(数物系)らの研究チームは、藻類オイルと植物油由来の精油成分、石油の精製過程などで生じる余剰資源のイオウから、赤外光を通し、ゴムのような弾力性を持つ高分子材料を開発した。加工が容易で安価な赤外線レンズ

### 赤外光を通す新素材開発

### バイオマス資源活用

れは、地球温暖化対策にも貢献する。藻類を増殖させてつくり出すと、化石燃料と違い枯渇の心配もない。一方で、燃料以外の利用法が課題とされている。筑波大は5年前、藻類オイルの産業応用などを狙って「藻類バイオマ

装置など幅広い場面で使われる。需要は大きい。藻類を増殖させてつくり出すと、化石燃料と違い枯渇の心配もない。一方で、燃料以外の利用法が課題とされている。筑波大は5年前、藻類オイルの産業応用などを狙って「藻類バイオマ

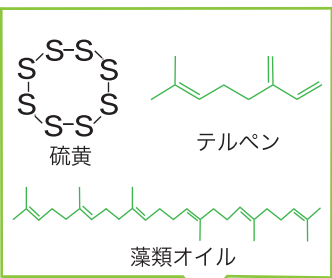
望みの形に成形できる加工の容易さも魅力だ。研究チームは今後、レ

進み道を見つけたらよいもの。本音にありがとうございました。入学した当時、私は平砂10号棟という、みなさんよくご存じの、アレな感じの五角形の部屋に住

れないほどの神環境です。この体験が私の人生を大きく変えたと言っても過言ではないでしょう。

ます。不思議な縁もあり、筑波大とも一緒に研究する分野も出てきています。みなさんにお目にかかる日はもちろんですが、ついにTXで通えるのを楽しみにしています。(平成16年度理工学研究科修了、写真は本人提供)

合成に用いた原料(上)と生成された赤外透過材料(下)



(図は筑波大の資料から作成、画像は本人提供)

### 手紙

「就職活動のころには常磐新線ができてから、家からも通えるだろうな」なんて、当時高校生3年生の私は軽々考えていました。平成10年、今からもう22年も前のことです。はるか遠い昔、1985年のつくば万博に行ってきた大学受験まじゅうには足を踏み入れ

んできましたが、宿舎内線は学情にダイヤルアップ接続することで24時間365日インターネットができる(ただし14・4kbps)という、黎明期のあのころでは考えら

んでした。もともと好きだったゲームとインターネットが掛け合わせたことにより、情報収集や発信を大学の資源を活用し実施することができ、学内だけでなく、そ

は、多様性の高さと思いません。さまざまな専門性を持つ先生や学生が入り交じり切磋琢磨できる、そして大学の中も外も分け隔てなく受け入れる懐の深さは、みなさんが社会人になつたときに改めて感じるのではないかと。現在はコロナの影響でリアルでの交流が減っているかもしれませんが、今できることや今後どうしていくのが良いのかを、ぜひみなさんと考えてみてほしいです。



NTTe-Sports 副社長  
影澤 潤一 さん

こぞ世界中の人たちと好きなゲームによる交流が広がり、リアルなコミュニケーションを求めて、全国各地を飛び回っていました。その時の経験から、必然的に通信の仕組みやデータ圧縮、暗号化やセキュリティといった分野に興味を持つようになり、デジタルコンテンツの著作権保護の研究を古賀先生の研究室にお世話になったのです。21世紀に入ってから2001年。常磐新線はついにエクストラップと名付けられました。が、一向に開通する気配はなく、結果大学院の修了まで乗ることができませんでした。

### 「守備範囲の広さ」未来拓く

研究センターの設置・廃止を柔軟に行い、若手の研究比率を上げるといい。社会の変化に、刺激や揺さぶりを与えることになった。

山本 佳世子(やまもと・かよこ)



# 全日本選手権 梶原 完全勝利の6冠



「マイヨ・アルカンシェル」を着てレースに臨む梶原=本人提供

第89回全日本選手権トラック・レースが、11月5〜8日にヤマダグリーンホール前橋(前橋市)で行われ、梶原悠未(体育P1年)が6種目で金メダルを獲得した。(遠子内早紀)

## 「目標有言実行できた」

6日の女子オムニアムには11人が参加した。▽スクラッチ▽テンポイント▽エリミネーション▽ポイントレースの4レースの総得点を競う。梶原は世界選手権優勝者だけが着用を許されるジャージ「マイヨ・アルカンシェル」で出場した。五大陸を表す緑、黄、黒、赤の五本のストライプがある。梶原は「ずっと憧れていた選手が勝利する。」「目標有言実行できた。」「最初のスクラッチでは、トラックを24周(8分)走り、その最終順位で競う。梶原は最初から先頭集団の中に入り、残り2周で2位につけた。残り半周でスタートをかけて後続を大きく引き離し、1位で終えた。2番目のテンポイントレースは、トラック1周ごとに先頭の選手に1点を与えられる。また、集団を1周追い抜くと20点が加算され、その総得点を競う。今大会は全20周で行われた。梶原は10周目から16周目まで先頭で通過し、17周目で集団を1周追い抜く圧倒的な強さで1位となった。3番目はエリミネーション。通常ルールでは、2周ごとに最下位の選手が脱落するが、今大会では1周ごとに脱落し、最後まで残った選手が勝利する。」「アルカンシェルのジャージをオムニアムで身につけて走ることができてうれい。今の1番の目標は東京五輪での金メダル。今大会は6冠という目標を有言実行できた」と話した。

最終種目のポイントレースは11月7日に文部科学省のスポーツ功労者顕彰を受賞した。2月に行われたUCIトラック世界選手権で女子オムニアムで日本人初の金メダルを獲得したため、自転車界からのスポーツ功労者顕彰は初めて。表彰は、全日本選手権の会場がヤマダグリーンホール前橋(前橋市)で行われた。梶原は「ずっと憧れていた選手が勝利する。」「目標有言実行できた。」「最初のスクラッチでは、トラックを24周(8分)走り、その最終順位で競う。梶原は最初から先頭集団の中に入り、残り2周で2位につけた。残り半周でスタートをかけて後続を大きく引き離し、1位で終えた。2番目のテンポイントレースは、トラック1周ごとに先頭の選手に1点を与えられる。また、集団を1周追い抜くと20点が加算され、その総得点を競う。今大会は全20周で行われた。梶原は10周目から16周目まで先頭で通過し、17周目で集団を1周追い抜く圧倒的な強さで1位となった。3番目はエリミネーション。通常ルールでは、2周ごとに最下位の選手が脱落するが、今大会では1周ごとに脱落し、最後まで残った選手が勝利する。」「アルカンシェルのジャージをオムニアムで身につけて走ることができてうれい。今の1番の目標は東京五輪での金メダル。今大会は6冠という目標を有言実行できた」と話した。

梶原は序盤から集団前方に位置し、終盤まで相手の出方をうかがった。最後は5輪での金メダル。今大会は6冠という目標を有言実行できた」と話した。

5日に行われた単独種目のエリミネーションでは、残り2人になった時点で、梶原は「連う展開でも勝てることを観客に見せられてよかった」と話した。

最終種目のポイントレースは11月7日に文部科学省のスポーツ功労者顕彰を受賞した。2月に行われたUCIトラック世界選手権で女子オムニアムで日本人初の金メダルを獲得したため、自転車界からのスポーツ功労者顕彰は初めて。表彰は、全日本選手権の会場がヤマダグリーンホール前橋(前橋市)で行われた。梶原は「ずっと憧れていた選手が勝利する。」「目標有言実行できた。」「最初のスクラッチでは、トラックを24周(8分)走り、その最終順位で競う。梶原は最初から先頭集団の中に入り、残り2周で2位につけた。残り半周でスタートをかけて後続を大きく引き離し、1位で終えた。2番目のテンポイントレースは、トラック1周ごとに先頭の選手に1点を与えられる。また、集団を1周追い抜くと20点が加算され、その総得点を競う。今大会は全20周で行われた。梶原は10周目から16周目まで先頭で通過し、17周目で集団を1周追い抜く圧倒的な強さで1位となった。3番目はエリミネーション。通常ルールでは、2周ごとに最下位の選手が脱落するが、今大会では1周ごとに脱落し、最後まで残った選手が勝利する。」「アルカンシェル

ゴールを決め1-0で勝利した。試合開始直後から攻守が何度も入れ替わり、互いにシュートを打つもゴールが決まらない展開が続いた。その後は相手のフリーキックからシュートを押し込まれそうになるなど、主導権を奪われる時間もあったが、キーパー櫻庭立樹(体育3年)の好守もあり、0-0のまま前半を終えた。後半も、両チームが互いに譲らない展開となった。筑波大は池谷祐輔(同3年)が左サイドを突破し力強いシュートを放つも、相手のキーパー猪越優惟(中央大)に止められた。一方、44分には相手に高

## 「野球をあきらめたくない」

### 読売ジャイアンツ 育成9位指名



笑顔を見せる奈良木(左)と内田スカウト(11月2日、GSI棟で)

10月26日のプロ野球ドラフト会議で、奈良木陸(社工4年)が読売ジャイアンツの育成9位で指名された。筑波大出身者の指名は3年ぶり8人目となる。奈良木は硬式野球部に所属する右腕投手。最速151キロの直球と縦、横2種類のカットボールが武器だ。社会工学科には一般入試で入学した。作成中の卒業論文では、各球団の戦力を数値化し比較。どうすれば各球団の戦力がより均衡化するドラフト制度となるかを研究している。筑波大は投手層が厚く、なかなか活躍できないことが悩みだった。3年時の夏には右肘の故障で手術を受け、首都大学秋季リーグ戦に登板すらできなかった。「自分の実力ではプロで通用しない」と感じ、年明けから就職活動を開始した。だが、「野球をあきらめたくない」と思いが湧き、1カ月で就活を中断。プロを見据え練習に専念した。今年はコロナ禍で春季リーグ戦は中止に。だが、学生最後の大会となった秋季リーグ戦では、持ち前の速球と新たに習得した精度の高い変化球を携えマウンドに立った。10月18日の日本体育大戦では7回から登板。打者7人を無安打に抑える好投を見せた。ドラフト会議の中継を筑波大のGSI棟で見守った奈良木は「選手選択を終了する球団が増えるにつれ諦めかけたが、名前が呼ばれほっとした」と話した。また、今後について「指名はいただいたが、スタート地点に立っただけ。まずは支配下登録を勝ち取り、1軍で活躍できるよう努力を重ねていきたい」と話した。11月2日には指名あいさつのため、ジャイアンツの

内田強スカウトが筑波大を訪れた。奈良木と対面した内田スカウトは「直球の回転数は通常、1分間に2400回転くらいだが、彼は7000回転を上回る。リーグ戦でも縦、横2種類のカットボールを投げ、打線を抑えていた。これらの点に将来性を感じた」と話した。川村卓監督(体育系・准教授)は奈良木について「黙々と自分の練習を行っている選手。プロ野球の世界でも、さまざまな人の意見を聞き、自分のものにしていけば、素晴らしい選手になるだろう」と話した。(天野隼太比較文化学類1年、写真も)

内田強スカウトが筑波大を訪れた。奈良木と対面した内田スカウトは「直球の回転数は通常、1分間に2400回転くらいだが、彼は7000回転を上回る。リーグ戦でも縦、横2種類のカットボールを投げ、打線を抑えていた。これらの点に将来性を感じた」と話した。川村卓監督(体育系・准教授)は奈良木について「黙々と自分の練習を行っている選手。プロ野球の世界でも、さまざまな人の意見を聞き、自分のものにしていけば、素晴らしい選手になるだろう」と話した。(天野隼太比較文化学類1年、写真も)

内田強スカウトが筑波大を訪れた。奈良木と対面した内田スカウトは「直球の回転数は通常、1分間に2400回転くらいだが、彼は7000回転を上回る。リーグ戦でも縦、横2種類のカットボールを投げ、打線を抑えていた。これらの点に将来性を感じた」と話した。川村卓監督(体育系・准教授)は奈良木について「黙々と自分の練習を行っている選手。プロ野球の世界でも、さまざまな人の意見を聞き、自分のものにしていけば、素晴らしい選手になるだろう」と話した。(天野隼太比較文化学類1年、写真も)

## 講道館杯

### 西願寺ら3人が5位



講道館杯が10月31日と11月1日の両日、千葉ポートアリーナ(千葉市中央区)で開催された。男子66キロ級



果敢に技を掛ける西願寺(下) = 全日本柔道連盟提供

で西願寺哲平(体専2年)と田中龍馬(同1年)が女子63キロ級で明石ひかる(同3年)が、それぞれ5位となった。健康記録表の提出や試合場の畳を1時間おきに消毒するなど、新型コロナウイルス対策を講じた。また、全試合が無観客で実施された。初日の男子66キロ級に出場した西願寺は、相手の反則負けで3回戦に進出。試合は延長戦となるも、開始約8分で一本を奪われた。敗者復活戦では同じ筑波大の田中と対戦。残り約20秒で巴投の技ありを奪い、勝利を収めた。続く3位決定戦では武岡毅(國學院大)と対戦。互いに積極的に攻め、一歩も譲らずそのまま延長戦へ。試合開始から5分が経過しようとした時、小外掛で一本を取られ敗れた。西願寺は「5年の講道館杯は手術のため出場できなかった。やっと出られた試合だが、練習の成果を発揮しきれず悔しさが残る。ウェイトトレーニングを積んで力負けしないようにし、来年は優勝を目指したい」と話した。2日目の女子63キロ級には明石が出場。1回戦は相手の反則負けで勝利した。2回戦は積極的に攻められずに3度の指導を受け、反則負けした。敗者復活戦では能智亜衣美(了徳寺大職員)と対戦した。お互いに防御の姿勢が続く、開始約50秒で両者に指導が与えられた。明石はその後、技を出すも決まらな。残り約30秒で小外掛の技ありを奪われ、そのまま試合終了となった。明石は「1回戦で一本背負投をしようとした時、回転やスピードが足らず、上手に投げられなかった。実践練習を重ねて改善していきたい」と話した。(北川瑠夢)

健康記録表の提出や試合場の畳を1時間おきに消毒するなど、新型コロナウイルス対策を講じた。また、全試合が無観客で実施された。初日の男子66キロ級に出場した西願寺は、相手の反則負けで3回戦に進出。試合は延長戦となるも、開始約8分で一本を奪われた。敗者復活戦では同じ筑波大の田中と対戦。残り約20秒で巴投の技ありを奪い、勝利を収めた。続く3位決定戦では武岡毅(國學院大)と対戦。互いに積極的に攻め、一歩も譲らずそのまま延長戦へ。試合開始から5分が経過しようとした時、小外掛で一本を取られ敗れた。西願寺は「5年の講道館杯は手術のため出場できなかった。やっと出られた試合だが、練習の成果を発揮しきれず悔しさが残る。ウェイトトレーニングを積んで力負けしないようにし、来年は優勝を目指したい」と話した。2日目の女子63キロ級には明石が出場。1回戦は相手の反則負けで勝利した。2回戦は積極的に攻められずに3度の指導を受け、反則負けした。敗者復活戦では能智亜衣美(了徳寺大職員)と対戦した。お互いに防御の姿勢が続く、開始約50秒で両者に指導が与えられた。明石はその後、技を出すも決まらな。残り約30秒で小外掛の技ありを奪われ、そのまま試合終了となった。明石は「1回戦で一本背負投をしようとした時、回転やスピードが足らず、上手に投げられなかった。実践練習を重ねて改善していきたい」と話した。(北川瑠夢)

健康記録表の提出や試合場の畳を1時間おきに消毒するなど、新型コロナウイルス対策を講じた。また、全試合が無観客で実施された。初日の男子66キロ級に出場した西願寺は、相手の反則負けで3回戦に進出。試合は延長戦となるも、開始約8分で一本を奪われた。敗者復活戦では同じ筑波大の田中と対戦。残り約20秒で巴投の技ありを奪い、勝利を収めた。続く3位決定戦では武岡毅(國學院大)と対戦。互いに積極的に攻め、一歩も譲らずそのまま延長戦へ。試合開始から5分が経過しようとした時、小外掛で一本を取られ敗れた。西願寺は「5年の講道館杯は手術のため出場できなかった。やっと出られた試合だが、練習の成果を発揮しきれず悔しさが残る。ウェイトトレーニングを積んで力負けしないようにし、来年は優勝を目指したい」と話した。2日目の女子63キロ級には明石が出場。1回戦は相手の反則負けで勝利した。2回戦は積極的に攻められずに3度の指導を受け、反則負けした。敗者復活戦では能智亜衣美(了徳寺大職員)と対戦した。お互いに防御の姿勢が続く、開始約50秒で両者に指導が与えられた。明石はその後、技を出すも決まらな。残り約30秒で小外掛の技ありを奪われ、そのまま試合終了となった。明石は「1回戦で一本背負投をしようとした時、回転やスピードが足らず、上手に投げられなかった。実践練習を重ねて改善していきたい」と話した。(北川瑠夢)

## 攻守光り中央大に勝利

### 関東大学リーグ戦

### サッカー

【味の素フィールド西が丘(東京都北区)で細井真生(人文学類1年、加藤優花(国際総合学類3年)12大学が争う関東大学リーグ戦は7月5日に開幕し、終盤を迎えている。筑波大は11月15日、中央大と対戦した。試合開始から互いに譲らない展開となった。筑波大は池谷祐輔(同3年)が左サイドを突破し力強いシュートを放つも、相手のキーパー猪越優惟(中央大)に止められた。一方、44分には相手に高

さのあるシュートを打たれたが、櫻庭が素早く反応し、片手で止めた。試合は0-0のまま3分間のアディショナルタイムへと突入。46分、角田涼太郎(体専3年)からのパスを受けた石川がキーパーの手を弾くシュートを決め、競り勝った。石川は「試合の前週まで2軍におり、1軍に上がって初の試合だった。アピールしたい気持ちがあり、勇気をもって脚を振れた。チャンスを決めきれずうれい」と話した。監督代理の高柳昂平(体育2年)は「中央大は手強い相手。選手は試合前から気合が入っていた。攻められても我慢し続け、一人一人がやるべきことをやれた」と話した。



# 全日本インカレ テニス 阿部 単複2冠果たす



女子シングルス決勝、ラケットでボールを捉える阿部=本人提供

全日本学生選手権(全日本インカレ)が11月17日から24日にかけて四日市テニスセンター(三重県四日市市)で開催され、女子シングルスで阿部宏美(体専2年)が初優勝した。女子ダブルスでも阿部は川出莉子(同1年)とのペアで優勝。単複2冠を達成した。男子シングルスでは田形諒平(同3年)が、男子ダブルスでは田形・弘光慎太郎(同3年)ペアがそれぞれ準優勝となった。(山田優芽)

24日の決勝では伊藤日和(同大)を相手に、第1、2セットともに6-0でストリート勝ちを決めた。第1セットはスライスショットで相手をつまみ、攻撃でポイントを取って先取りし、阿部がリードする展開に。第5、6ゲームで一時はデュースとなる場面もあったが、阿部が1ゲームも落とさず第1セットを先取りした。第2セットも阿部の積極的なプレーが続いた。最後は阿部が素早いリターン放ち、試合終了。初優勝を飾った。阿部は「調子が良くなかったため、相手のミスを誘うプレーを意識した。早いラリーが得意な相手のペースにもついていけなかったことが勝因だと思う。今後はユニバーシアード代表を目指し、プレーの幅を広げたい」と話した。田形は23日の男子シングルス準決勝で全日本選手権準優勝者の今村昌倫(慶應大)と対戦。第1、3セットを取り、格上の相手に勝利した。

### 関東学生トーナメント 田形 追い上げかわし優勝

関東学生トーナメントが10月28日から11月9日にかけて早稲田大庭球部三神記念コート(東京都西東京市)などで開催され、男子シングルスで田形諒平(体専3年)が優勝した。同大会は毎年4月に開催(亜細亜大)と対戦。試合

序盤は田形がリード。第1セット中盤で巻き返されるも、緩急をつけた攻撃で最後は2ゲームを連取し、7-5で奪った。第2セットは10ポイント先取りし、9-3と優勝まで取った。阿部は「半年ぶりの公式戦を楽しもうという気持ちで臨んだ。相手が粘り強い選手だったため、攻める姿勢を崩さないよう意識した」と試合を振り返った。(山田優芽)

## 最終戦 白鷗大に勝利 オータムカップ



ディフェンスを振り切りゴール下に切り込む山口(11月7日、白鷗大戦で)

### バスケット

【つくばカピオ(つくば市竹園)で加藤優花II国際総合学類3年、写真も。12面に関連写真】オータムカップの1部トーナメントが10月10日から11月7日まで開催された。関東大学リーグ戦の代替大会で、新型コロナウイルス感染症対策のため、全試合が無観客で行われた。筑波大は3位となり、全日本大学選手権インカレの出場権を得た。筑波大は11月7日、白鷗大と対戦。前半はリードされたが後半に巻き返し、62-55で接戦を制した。

### 山口 勝利に貢献

55で接戦を制した。第1クォーター、菅原暉(体専4年)が外したシュートを木林優(同1年)が押し込む。山口颯斗(同4年)も3連続シュートを決めてリードを奪うが、終盤に追い付かれ、15-15となった。第2クォーターでは相手に3Pシュートを許すなど、徐々に点差が開いた。筑波大もシュートを狙うが、うまく決まらず、23-34で前半が終了した。第3クォーターも相手にリバウンドを取られる場面が続くなど、主導権を握れなかった。

「何か武道をやるべきだ」という祖父の勧めで、小学校入学時に柔道を始めた。柔道を選んだのは、他の武道よりも練習時間の都合がよかったからだ。だが「負けたくない」という気持ちは人一倍強かった。地元・佐賀市の精道館道場に週3回通い、約1時間半の稽古に励んだ。さらに、チューブを使った筋力トレーニングなども重ねた。小学校6年時には県大会で優勝するまでになった。その後、道場の先輩も多い同市立昭栄中に入学。2人の顧問教員の下、全国大会出場を目標に毎日2〜3時間の練習

「何か武道をやるべきだ」という祖父の勧めで、小学校入学時に柔道を始めた。柔道を選んだのは、他の武道よりも練習時間の都合がよかったからだ。だが「負けたくない」という気持ちは人一倍強かった。地元・佐賀市の精道館道場に週3回通い、約1時間半の稽古に励んだ。さらに、チューブを使った筋力トレーニングなども重ねた。小学校6年時には県大会で優勝するまでになった。その後、道場の先輩も多い同市立昭栄中に入学。2人の顧問教員の下、全国大会出場を目標に毎日2〜3時間の練習

### 柔道

1年生ながら今秋、国内の主要柔道大会の一つ、講道館杯66kg級で5位入賞。五輪出場など、大舞台での活躍が期待される。

### スポーツ顔

中学生当初は、授業の課題提出が遅れたり、遅刻したりするなど、時

### 「負けたくない」強い思い

な柔道を目指す必要性を痛感した。そこで、得意な技を繰り出せるよう組み手争いで優位を奪う練習を入れた。3年時



### インターハイ優勝のホープ 田中 龍馬 (体専1年)

3年時にはインターハイ66kg級で優勝。決

「負けたくない」という強い思いが、柔道への確信を持って試合に臨んだ。高いレベルで切磋琢磨できることに加え、現役引退後も教員として柔道に関わりたいという思いがあり、筑波大への進学は高校入学時点からの目標だった。体育教員の養成実績が豊富だからだ。今年3月末からつくば生活を始めたが、新型コロナウイルスの影響で、7月まで部の練習に参加できなかった。その間は、ランニングや筋トレなど地道な個人練習を続けた。

中学生当初は、授業の課題提出が遅れたり、遅刻したりするなど、時



# 学生が作る研究誌「雙峰論叢」

## ウェブで初公開

筑波大生が執筆した人文社会科学分野の論文を掲載する研究誌「雙峰論叢」の第5号が、初めてオンラインで公開された。著作権保護や寄稿者への誹謗中傷防止のため、公開は原則筑波大の学生と教職員に限定されている。閲覧用パスワードは、オンライン会議システム「Teams」内にある「人文科学類自主研究企画」というチームに登録すると入手できる。

(梅津拓人 比較文化学類2年)

「雙峰論叢」は、人文社会科学分野の論文を掲載する研究誌「雙峰論叢」の第5号が、初めてオンラインで公開された。著作権保護や寄稿者への誹謗中傷防止のため、公開は原則筑波大の学生と教職員に限定されている。閲覧用パスワードは、オンライン会議システム「Teams」内にある「人文科学類自主研究企画」というチームに登録すると入手できる。

先行研究まとめや未邦訳の著作の試訳などが対象の「研究ノート部門」▽書評や留学体験記などを紹介する「レビュー部門」の三つがある。論考部門と研究ノート部門の寄稿は学群生に限るが、レビュー部門は大学院生も寄稿できる。編集しているのは学生団体「雙峰論叢」のメンバー8人。人文社会科学を専門としない学生も寄稿できるのが特色で、これまで障害

科学類や芸術専門学群など幅広い分野の学生が寄稿してきた。第5号では各部門3本ずつ、計9本掲載された。フランス語を専攻する宮腰駿さん(人文3年)は「アルザス語研究の現状」を研究ノート部門に寄稿した。ヨーロッパの複数の大学が共同で進めるプロジェクトなど、アルザス語に関する最新の研究をまとめた。宮腰さんは「アルザス語学に関する研究資料は手に入りにくく、和訳本もほとんどない。資料収集や翻訳がとにかく大変で、完成まで半年かかったと語った。雙峰論叢は2018年11月以降、毎年4月と11月の2回、100〜200部ほどを紙媒体で発行してきた。今年は新型コロナウイルスの影響で冊子の学内配布が難しいため、ウェブサイトで公開を決めた。代表責任者の河本三礼さん(人文2年)は、「オンラインで公開したことで、紙媒体より多くの人に論文を読んでもらえることを期待している」と話した。年内には、過去に出版した4冊もオンライン公開するつもり。

筑波大公式ツイッター 学外に情報発信開始 筑波大は11月11日、公式ツイッターアカウント(@DUNI-TSUKUBA.JP)を開設した。ソーシャルネットワークキング・サービス(SNS)で情報収集することが多い中高生への情報発信の強化を狙いだ。投稿内容は、筑波大のウェブサイトに掲載されている研究成果やイベント情報などの転載が中心だ。在学生向けの情報は、TWINSで掲示されているため、投稿しない方針だ。ただし、災害など緊急事態発生時は、在学生向けの「重要なお知らせ」をツイッターでも周知する。ツイッターは広報室の職員が担当する。フォローは12月10日現在で3100人余り。

筑波大は、これまでもフェイスブック(2012年開始)やユーチューブ(13年開始)、インスタグラム(17年開始)などのSNSで情報を発信してきた。公式ツイッターの開設は、今年度に入ってから検討が始まった。12月下旬に予定されている筑波大のサトリニューラルに先駆け、ツイッターを始めるとなった。広報戦略室長の山科直子教授は「中高生など若者は、ウェブサイトをSNSで情報を入力している状況がある。ツイッターの開始で情報発信する媒体を増やすことができた。最新の研究成果やニュースを投稿するので、ぜひフォローしてほしい」と語った。(西村大祐)

# 中止やオンライン開催も

## 秋の新歓祭 自粛要請の影響

「1面参照」コロナ禍で中止された今春の「新入生歓迎祭」に代わるイベントとして、新入生歓迎推進委員会(新推委)は11月23日〜27日を「新歓祭期間」とした。多くの学生団体がインターネットなどで事前に新歓行事を宣伝していたが、12月2日に筑波大が出した課外活動自粛要請を受け、新歓を中止したりオンライン開催に切り替えたりする団体もあった。(北川瑞葉 写真も。12面に関連写真)

筑波大学応援部WINN 2日の新歓では、1年生の紹介などにあつめた。1Sは12月2、5、7日に対してチャレンジングなど練習の見学と体験をしながら、新歓を予定していたが、活動内容を表の提出を義務付け、定期5、7日の新歓は中止した。



活動の説明をする筑波大学応援部 WINS の部員 (12月2日、クラブハウスで)

2日の新歓では、1年生の紹介などにあつめた。1Sは12月2、5、7日に対してチャレンジングなど練習の見学と体験をしながら、新歓を予定していたが、活動内容を表の提出を義務付け、定期5、7日の新歓は中止した。

秋の新歓祭 自粛要請の影響 「1面参照」コロナ禍で中止された今春の「新入生歓迎祭」に代わるイベントとして、新入生歓迎推進委員会(新推委)は11月23日〜27日を「新歓祭期間」とした。多くの学生団体がインターネットなどで事前に新歓行事を宣伝していたが、12月2日に筑波大が出した課外活動自粛要請を受け、新歓を中止したりオンライン開催に切り替えたりする団体もあった。(北川瑞葉 写真も。12面に関連写真)

秋の新歓祭 自粛要請の影響 「1面参照」コロナ禍で中止された今春の「新入生歓迎祭」に代わるイベントとして、新入生歓迎推進委員会(新推委)は11月23日〜27日を「新歓祭期間」とした。多くの学生団体がインターネットなどで事前に新歓行事を宣伝していたが、12月2日に筑波大が出した課外活動自粛要請を受け、新歓を中止したりオンライン開催に切り替えたりする団体もあった。(北川瑞葉 写真も。12面に関連写真)

秋の新歓祭 自粛要請の影響 「1面参照」コロナ禍で中止された今春の「新入生歓迎祭」に代わるイベントとして、新入生歓迎推進委員会(新推委)は11月23日〜27日を「新歓祭期間」とした。多くの学生団体がインターネットなどで事前に新歓行事を宣伝していたが、12月2日に筑波大が出した課外活動自粛要請を受け、新歓を中止したりオンライン開催に切り替えたりする団体もあった。(北川瑞葉 写真も。12面に関連写真)

# 全学から新歓委員募る

## 総合学域群「オール筑波で歓迎」

総合学域群の新入生歓迎委員の募集が11月24日に始まった。同学域群は、2021年度入試から始まる総合選抜で入学した学生が1年間所属する。来年4月に初めて学生を受け入れる同学域群には上級生がおり、全学から新歓委員を募ることになった。新歓委員は、宿舎入居の手伝いや懇親会の運営、学生生活に役立つパンフレットの作成など幅広い役割を担う。学年の制限は無く、来年度も在学する学生であれば誰でも応募できる。大学院生も応募可能だ。



TWINS やツイッターに掲載したポスター (12月7日、本紙編集室で)

総合学域群の新入生歓迎委員の募集が11月24日に始まった。同学域群は、2021年度入試から始まる総合選抜で入学した学生が1年間所属する。来年4月に初めて学生を受け入れる同学域群には上級生がおり、全学から新歓委員を募ることになった。新歓委員は、宿舎入居の手伝いや懇親会の運営、学生生活に役立つパンフレットの作成など幅広い役割を担う。学年の制限は無く、来年度も在学する学生であれば誰でも応募できる。大学院生も応募可能だ。

総合学域群の新入生歓迎委員の募集が11月24日に始まった。同学域群は、2021年度入試から始まる総合選抜で入学した学生が1年間所属する。来年4月に初めて学生を受け入れる同学域群には上級生がおり、全学から新歓委員を募ることになった。新歓委員は、宿舎入居の手伝いや懇親会の運営、学生生活に役立つパンフレットの作成など幅広い役割を担う。学年の制限は無く、来年度も在学する学生であれば誰でも応募できる。大学院生も応募可能だ。

総合学域群の新入生歓迎委員の募集が11月24日に始まった。同学域群は、2021年度入試から始まる総合選抜で入学した学生が1年間所属する。来年4月に初めて学生を受け入れる同学域群には上級生がおり、全学から新歓委員を募ることになった。新歓委員は、宿舎入居の手伝いや懇親会の運営、学生生活に役立つパンフレットの作成など幅広い役割を担う。学年の制限は無く、来年度も在学する学生であれば誰でも応募できる。大学院生も応募可能だ。

総合学域群の新入生歓迎委員の募集が11月24日に始まった。同学域群は、2021年度入試から始まる総合選抜で入学した学生が1年間所属する。来年4月に初めて学生を受け入れる同学域群には上級生がおり、全学から新歓委員を募ることになった。新歓委員は、宿舎入居の手伝いや懇親会の運営、学生生活に役立つパンフレットの作成など幅広い役割を担う。学年の制限は無く、来年度も在学する学生であれば誰でも応募できる。大学院生も応募可能だ。

総合学域群の新入生歓迎委員の募集が11月24日に始まった。同学域群は、2021年度入試から始まる総合選抜で入学した学生が1年間所属する。来年4月に初めて学生を受け入れる同学域群には上級生がおり、全学から新歓委員を募ることになった。新歓委員は、宿舎入居の手伝いや懇親会の運営、学生生活に役立つパンフレットの作成など幅広い役割を担う。学年の制限は無く、来年度も在学する学生であれば誰でも応募できる。大学院生も応募可能だ。

# 内容に矛盾ないが説明不足

## 第357号 留学中断記事

本紙は第357号(7月13日発行)の7面で「筑波大生98人留学中断」と報じた。新型コロナウイルスの感染拡大が筑波大の国際交流に与えた影響を追った記事だ。

筑波大は今年3月末、留学中の全学生1277人に帰国の対応が3月と4月以降で変わっていたことだ。担当によれば、世界的な感染拡大及び航空便の運休が生じたため、3月中は学生に帰国を急がせた。しかし、4月以降は、日本に帰れない事情が本人から書面で提出され、保護者所属組織が了解した場合は滞在を認めることになった。

航空便の運休により帰国できない状況が生じたことに加え、台湾などに留学中

の学生から「帰国する方が感染リスクがある」などの申し出があったため、担当者は「日本に戻ってほしい」という思いは一貫している。ただ、帰国に際し安全性の問題があると言われると、帰国を強制することは難しかった。勉強を続けたという理由だけでは、滞在を認めない」と説明する。

本紙記事は、滞在継続は「保護者や所属する組織の了解」と「大学に理由を申し出る」の2点が必要だとしており、同機構の説明との間に矛盾はない。ただし、本紙には、3月と4月以降で大学の対応が異なったことや、「勉強を続けたい」という理由では、留学継続は認められない」と書かれていない。記者もその事実を取材できていなかった。一方、新聞発行前に記事を確認した同機構の担当者も「希望すれば留学継続が認められる」と単純に考える学生はいないと思いい、記事に疑問は感じな

本紙記事は、滞在継続は「保護者や所属する組織の了解」と「大学に理由を申し出る」の2点が必要だとしており、同機構の説明との間に矛盾はない。ただし、本紙には、3月と4月以降で大学の対応が異なったことや、「勉強を続けたい」という理由では、留学継続は認められない」と書かれていない。記者もその事実を取材できていなかった。一方、新聞発行前に記事を確認した同機構の担当者も「希望すれば留学継続が認められる」と単純に考える学生はいないと思いい、記事に疑問は感じな

本紙記事は、滞在継続は「保護者や所属する組織の了解」と「大学に理由を申し出る」の2点が必要だとしており、同機構の説明との間に矛盾はない。ただし、本紙には、3月と4月以降で大学の対応が異なったことや、「勉強を続けたい」という理由では、留学継続は認められない」と書かれていない。記者もその事実を取材できていなかった。一方、新聞発行前に記事を確認した同機構の担当者も「希望すれば留学継続が認められる」と単純に考える学生はいないと思いい、記事に疑問は感じな



東京駅から学内に「つくバック」できる高速バス「つくば号」(12月8日、本部棟前で)



つくばつく「つくバック」《名》帰省先や県外からつくばに戻ることに。主に学生宿舎やアパートなど大学周辺に住む学生が使用する。「正月に帰省するが、授業開始までには1する。」↓

## 解説

「つくバック」は、「つくば」と「帰省先から」に戻るという意味の「back」からなる複合語だ。「帰」も同様の意味を指す。筑波大は、交通の便の悪さからしばしば「陸の孤島」と揶揄されていた。1987年に東京駅とつくばセンターを結ぶ高速バス「つくば号」の運行が始まった。今思えば、継続が認められるのは「特段の事情がある場合に限り」という表現が加わっていた方がよかったという。両者ともに、留学や留学継続を希望する学生の気持ちにもっと寄り添って取材や取材対応をすれば、誤解を生じない正確な記事になったのではないか。筑波大は外務省が発出する「危険情報」と「感染症危険情報」が4段階中一番低いレベル1にならない限り、学生が対象国に渡航することを認めておらず、現時点で学生が新たに留学できる状況はない。同機構のまとめでは、11月10日現在、申出書を提出し、海外に滞在中の日本人学生は14人。このうち帰国予定が4人、帰国困難が10人。困難者の滞在中、地域は台湾4人、オーストラリア2人、カンボジア・キプロス・フランス・ロシア各1人となっている。(本紙編集代表・鴨志田公男)



# 学生600人に食事補助券配布

## 経営厳しい食堂などの支援も狙い



配布された食事補助券(12月3日、本紙編集室で)

コロナ禍で困窮する学生支援の一環として、筑波大は約600人の学生に1人当たり2000円分の食事補助券を配布した。筑波キャンパス内の福利厚生施設(食堂、喫茶、パン販売所)で利用できる。学生生活課によると、経営が厳しい学内の事業者を支援する狙いもあったという。利用可能期間は11月30日から12月25日まで。

補助券は現金の代わりに属病院内の食堂と喫茶など利用できるが、釣銭は出ない。券売機が設置されている食堂などで利用する際は、先に食券を購入し、補助券と一緒にカウンターに提出すると、返金される。

ただし中央図書館内のスターバックスコーヒーや附設の「新型コロナウイルス感染症対策助成事業」に応募して得た助成金120万円などをあてた。補助券の配布で食堂などの利用回数を増やし、事業者の売り上げ向上につなげることも目的の一つだが、第二群食堂の従業員は「オンライン授業の導入で食堂を利用する学生が減った。加えて、学生は食堂での感染を心配し、利用を敬避しているのではないか。事業者にとって補助券の効果はわずかな」と話した。

ため、11月24~30日まで2次募集期間を設け、計633人が補助券の受け取り対象となった。学生は1人あたり2000円相当(100円券×20枚)の補助券を受け取る。

4年の学生は「新型コロナウイルスの影響でアルバイトをやめ、経済的に苦しい。大学の支援は助かる」と話した。補助券の財源には、筑波大が10月下旬に日本学生支援機構の「新型コロナウイルス感染症対策助成事業」に応募して得た助成金120万円などをあてた。

「Teams」で開かれた。コロナ禍で学生同士の交流が希薄化する中、大学生活を充実させる手段としてT-ACCTを活用してほしいとの思いで、筑波大生アクシヨンのスズメプロジェクトの代表を務める村上達哉さん(人文3年)が企画した。

# 団体同士のつながり作る機会に

## 「T-ACCTのスズメ」開催



イベントのポスターを持つ村上さん(12月9日、1D棟で)

T-ACCT(つくばアクティブプロジェクト)の普及と、活動する学生の交流を深めるイベント「T-ACCTのスズメ」が11月21日、オンライン会議システム「Teams」で開かれた。

「やってみよう」を応援する筑波大独自のプログラムだ。学生が企画立案する「T-ACCTアクション」、教職員が企画者となる「T-ACCTプラン」、地域活動団体が学生ボランティアを募る「T-ACCTボランティア」の3種類がある。村上さんの「スズメプロジェクト」もアクションの一つだ。

「ONE BEAT」や「つくばの春を取り戻せプロジェクト」など、アクションで現在活動中や過去に活動していた8団体の代表が参加。SNSの広報などを見て興味を持った一般の学生8人も参加し、計16人の学生が交流した。

イベントではまず、T-ACCTの概要説明と、各団体の紹介が行われた。後半では意見交換の時間が設けられ、各団体の代表者が参加者からの質問に答えた。

活動の中で大変だったことは何かという質問に対し、個人の好みや合ったコーヒーの選び方を研究する団体「Higa Coffee」の代表を務める丸子さくらさん(社工2年)は、研究用のデータベースを作成したが、情報工学に詳しいメンバーがおらず苦労した経験を紹介した。丸子さんは「情報学部の友人に声をかけ、半年かけて現在の担当者にたどり着いた。自分たちの団体の楽しさやコンセプトをわかりやすく伝える難しさを感じた」と話した。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で雙峰祭が中止されたが、入学時に学費金を一括で支払った在学学生に返済はしない。学実委によれば、1万人近い学生全員に漏れなく返金することは難しいため、学実委の担当者は「公平性の観点から1年生と編入生に協力ををお願いしたい」と話した。

今年度の雙峰祭資金は、昨年度からの繰越金と10月以降に集めた学費金を合わせて約730万円。そのうち約88万円を、消火器やゴミ袋などの備品・消耗品購入などに充てた。残りの約640万円は来年度に繰り越し、消毒液の購入など感染対策に多く用いる予定だ。(後藤佳代、二橋美音)

# オンラインチャット3種新設

## コロナ禍での国際交流図る

オンラインチャットで筑波大生と留学生や海外の協定校の学生が交流するイベント「Tsuku-Chat」と「GOTCHAT」が11月から始まった。留学が難しいコロナ禍でも国際交流の機会を設けようと、グローバル・コミュニケーション機構が企画した。TWINNの掲示板から応募すると参加できる。来年1月には、英会話を実践する初心者向けの「G-Chat」も始まる予定だ。(工藤和哉)

Tsuku-Chatでは毎回、あらかじめ決められたテーマについて英語で議論する。毎週水曜日に4~5人のグループに分かれて1時間ほど話し合う。12月1日までに筑波大生40人、協定校の学生314人、計354人が参加登録した。協定校の学生はマレーシアやフィリピンなど東南アジアの学生が多いが、フランスやカナダの学生もいる。

GOTCHATは、異なる言語を話す学生同士を1対1でマッチングし、互いに教え合う企画だ。対象言語に指定はなく、英語のほかドイツ語やフランス語、中国語など幅広い言語の話者が登録している。12月4日時点で海外出身者を含む筑波大生94人、協

定校の学生7人が応募し、計32組をマッチングした。同機構は今年2月まで、留学生と筑波大生が対面で英語会話を楽しむ交流イベント「Global Chat」を運営してきたが、スチューデント・コミュニティの閉鎖に伴い、5月からはオンライン開催に変更していた。

その後、新型コロナウイルスの影響が長期化する中で、海外の協定校の学生とも交流できるオンラインの強みを更に生かしたイベントを新設することにした。学生の意向を知るため、同機構は10月7日から30日の間、TWINNでアンケートを実施し、約1000

件の回答を得た。学生からは「初心者にとって大人気の英会話はハードルが高い」「英語以外の言語も学びたい」といった声が寄せられた。こうした意見も踏まえ、今回、5月から実施しているオンラインでのGlobal Chatに代えて、三つのチャットイベントの実施を決定した。

同機構の糸井智香・国際事業係長は「今はまだ留学できないが、オンラインを活用した国際交流なら可能だ。語学力の向上や外国人の友達作りのため、3種類のチャットイベントを活用してほしい」と語った。

- Tsuku-Chat**
    - ・4~5人のチームに分かれる
    - ・テーマについて英語で議論
  - GOTCHAT!**
    - ・1対1で言語を教え合う
    - ・対象言語は指定なく、英語、ドイツ語、フランス語など
  - G-Chat**
    - ・初心者向け
    - ・留学生スタッフ中心に英会話
- (取材を基に作成)

# 写真部

## 変わりゆく日常撮り続ける



「#バーチャル筑波大学」のタグを付けて投稿した教室の写真=同部提供

「フィルムカメラに詳しい先輩がいる」「学内の暗室で現像できる」と盛り上がる。画面越しでも写真への情熱が伝わってくる。今年11月の金曜日。夕刻から筑波大学写真部の面々がオンライン会議システム「Zoom」に集まった。15分程度のミーティングの終盤には、見学の1年生が「高校生の頃から写真撮影に興味です」と自己紹介。すかさず部員から「このカメラ使ってるの?」と質問が飛んだ。1年生がフィルムの一眼レフカメラの名を答えると、部員たちから歓声が上がり、「フィルムカメラに詳しい先輩がいる」「学内の暗室で現像できる」と盛り上がる。画面越しでも写真への情熱が伝わってくる。

今年11月の金曜日。夕刻から筑波大学写真部の面々がオンライン会議システム「Zoom」に集まった。15分程度のミーティングの終盤には、見学の1年生が「高校生の頃から写真撮影に興味です」と自己紹介。すかさず部員から「このカメラ使ってるの?」と質問が飛んだ。1年生がフィルムの一眼レフカメラの名を答えると、部員たちから歓声が上がり、「フィルムカメラに詳しい先輩がいる」「学内の暗室で現像できる」と盛り上がる。画面越しでも写真への情熱が伝わってくる。

# 写真部

今年11月の金曜日。夕刻から筑波大学写真部の面々がオンライン会議システム「Zoom」に集まった。15分程度のミーティングの終盤には、見学の1年生が「高校生の頃から写真撮影に興味です」と自己紹介。すかさず部員から「このカメラ使ってるの?」と質問が飛んだ。1年生がフィルムの一眼レフカメラの名を答えると、部員たちから歓声が上がり、「フィルムカメラに詳しい先輩がいる」「学内の暗室で現像できる」と盛り上がる。画面越しでも写真への情熱が伝わってくる。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で雙峰祭が中止されたが、入学時に学費金を一括で支払った在学学生に返済はしない。学実委によれば、1万人近い学生全員に漏れなく返金することは難しいため、学実委の担当者は「公平性の観点から1年生と編入生に協力ををお願いしたい」と話した。



# Who's Who?

第一種銃猟免許とわな猟免許を取得した

## 野澤 楓佳 さん (資源2年)



笑顔の野澤さん=本人提供

銃猟免許の受験資格年齢(20歳)に達した今年の秋、散弾銃・ライフル銃が使える第一種銃猟免許とわな猟免許を取得した。

将来の希望は、農業や自然環境に携わる仕事に就くこと。野生鳥獣による農作物被害が各地で続く中、「狩猟免許を持つことは、私が鳥獣被害と向き合う第一歩になる」と考えた。

農林水産省によれば、シカやイノシシ、サルなど野生鳥獣による全国の農作物被害額は2018年度で1508億円。12年度の230億円をピークに減少しているが、依然として高水準にある。耕作放棄地の増加や

山間地の伐採による生息域の変化、地球温暖化の影響など、さまざまな要因が絡んでいる。

対策の一つが有害鳥獣を駆除する狩猟だ。しかし、ハンターの高齢化が進み、70年代には50万人いた狩猟免許所持者が現在では10万人程度しかない。対策に当たる自治体は、ハンターの確保が課題になっている。

東京都東村山市出身。同市はアニメ映画「となりのトトロ」の舞台となった狭山丘陵の一角にあり、都市化が進んだ中でも里山などの自然が残る。同居していた祖父から、ザリガニ釣り

やセミの捕まえ方を教わるなど幼いころから動物に慣れ親しんで育った。当時から、田舎暮らしへの憧れが強かった。

だが、高校、大学と学ぶ中で、人間と動物の生息域の境となってきた里山の荒廃が、鳥獣被害の一因と知った。「多くの人がとって里山は、実生活とは縁のない、他人事の世界になってしまった」と感じ、「鳥獣被害に對して、このまま他人事ではないか」という思いが募った。

そうした中で、自分ができることを探し、見つけたのが狩猟という選択だった。

狩猟に對しては、動物愛護の観点から批判的な声もある。しかし、「被害を受けている農業従事者の立場からは、そればかりが正しいとは言えない」と考える。狩猟には、動物の個体数を抑えて生息域を一定にするなど、人間の世界と野生動物の世界のバランスを保つ役割がある。

## 鳥獣被害の問題に向き合う

### 「このまま他人事でいたくない」

狩猟免許の試験で苦労したのは、銃の分解、組み立て、点検など実技分野だ。銃の扱いは今までにない経験で、模擬銃に触られる機会も事前講習会の1日限りだった。講習会後も自宅にある銃を銃に見立てて必死に練習を繰り返した。

免許取得後の11月下旬、つくば市内で行われたわな猟に初めて同行した。学生狩猟連合の紹介で、先輩ハンターの指導の下、わなにかかったタヌキにナイフでとめを刺し、解体した。

しかし、タヌキの体の構造が頭に入らないうちに、勝手に解体を進めることができなかった。

「生きている動物を自分の手で仕留めるのは初めてで、タヌキの苦しむ姿に申し訳ない気持ちになった。知識を増やし、経験を積みまないと何もできないと実感した」。ほろ苦い体験をそう振り返る。

野生鳥獣の食肉はフランス語で「ジビエ」と呼ばれ、欧州で

はジビエを使った食文化が育まれてきた。鳥獣駆除の増加に伴い、日本でもジビエに注目が集まるようになった。自身もそのような活動に関わっていきたく願う。「動物が好きだからこそ無駄にいたくない」。

初めての獲物となったタヌキの毛皮は業者になめしてもらい、飾りにする予定。肉はタヌキ汁や焼き肉にして食べた。牛の赤身に近い食感で、繊維質で歯ごたえがあった。

在籍する生物資源学類は学べる学問分野の幅が広く、専攻もじっくり決められる。多方面の知識を身に着けながら、具体的な進路を定めていくつもりだ。

「狩猟採集で生きてきた人類は、その場所どんな生態系が形成されているかを理解していたはず。現代に生きる自分も自然の一部から命をいただいたという気持ちで、忘れないうちにしたい」

(山田優芽 比較文化学類1年)

次号は

# 2月1日(月)

発行予定です

## 編集後記

師走に突入したのを機に、今年の取材を振り返ってみました。新年最初の取材は箱根駅伝でした。私は戸塚中継所で、観客にもまねながら、選手の勇姿をカメラに収めました。今では向こう側に読者がいることを感じないほど「密な」とは変わりません。本紙は現場でした▼新型コロナウィルスは本紙の取材手法を大きく変えました。これまでは、対面取材が当たり前でしたが、入構制限が始まった4月以降はオンライン会議システムでの取材が主流になりました。入構制限が緩和された今も、対面取材は学長取材など一部に人文学類3年)

## 編集・発行

■筑波大学新聞編集委員会  
 ▼委員長 土井隆義(人文社会学系・教授) 社会学  
 ▼副委員長 佐藤勤(学生部長) ▼委員 菅谷純子(生命環境系・教授) 果樹園芸学、竹中佳彦(人文社会学系・教授) 政治学

■筑波大学新聞編集部  
 ▼編集代表 鴨志田公男(筑波大学・教授) サイエンスコミュニケーション  
 ▼編集長 西村大祐(人文社会学類3年) ▼副編集長 後藤佳怡(社会学類3年) 加藤優花(国際総合学類3年) ほか編集部員19人

発行所 筑波大学

印刷 ヒラマ写真製版

## 駅前に18階建てマンション



再開発が進む「CREO」(左奥)とマンション予定地(手前)(12月7日、つくば市吾妻で) = 西村大祐撮影

1面へ

## 平砂アートムーヴメント第2弾



角材を組み立てて作品を作る速水一樹さん(11月14日、松見公園で) = 北川瑠菜撮影

5面へ

## バスケ オータムカップ3位決定戦



速攻からシュートを決める二上(左)(11月7日、白鷗大戦で) = 加藤優花撮影

9面へ

## 感染対策取り秋の新歓祭開催



間隔を保って1年生と歓談する筑波大学応援部 WINS(12月2日、クラブハウスで) = 北川瑠菜撮影

10面へ

学内総合

学芸

スポーツ

学生生活